

都市再生整備計画 事後評価シート
長府駅周辺地区

平成25年3月

山口県下関市

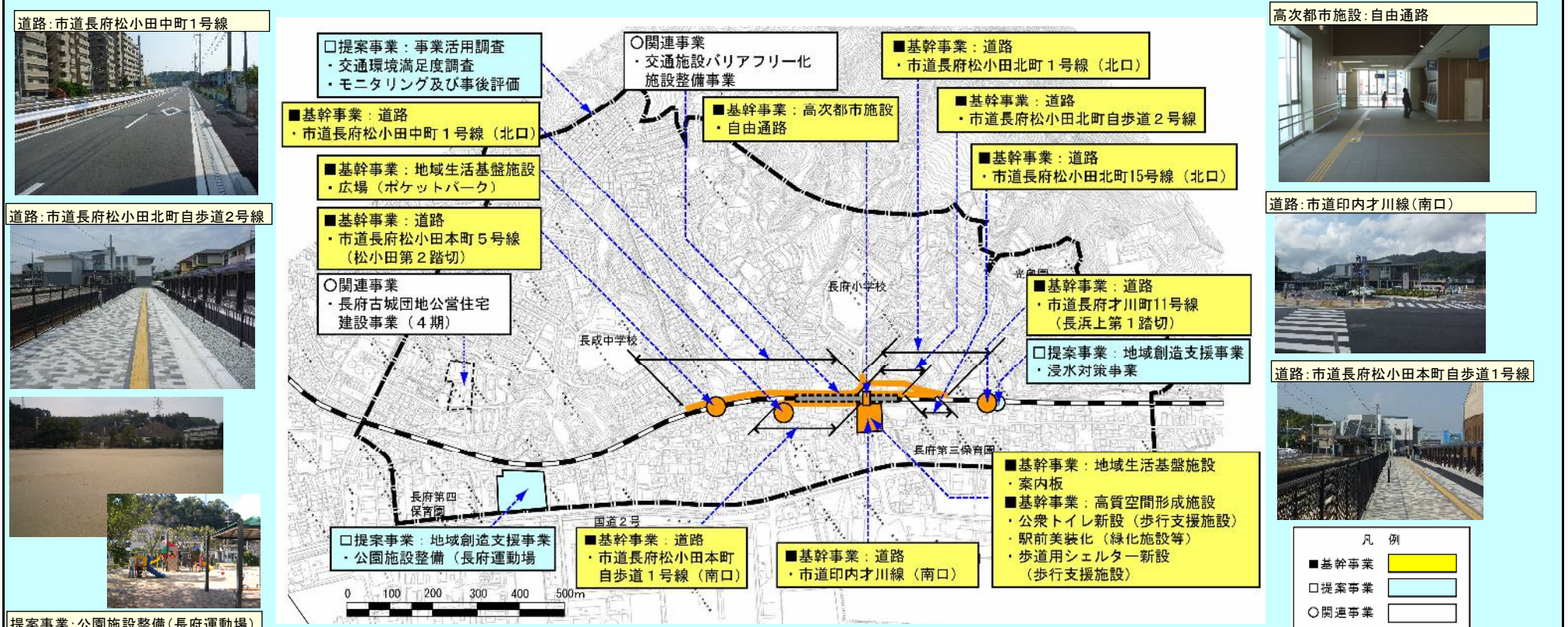
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山口県	市町村名	下関市	地区名	長府駅周辺地区			面積	155ha				
交付期間	平成19年度～23年度	事後評価実施時期	平成24年度	交付対象事業費	2,962.5	国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
	基幹事業		道路(6路線)、地域生活基盤施設(駐輪場2箇所)、高質空間形成施設(モニュメント)										
	提案事業		地域創造支援事業(JR長府駅橋上化、浸水対策事業、公園施設整備)、事業活用調査(交通環境満足度調査、モニタリング・事後評価)、まちづくり活動推進事業(レンタサイクル事業、まちづくりPR活動)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(駐輪場2箇所)	道路付属物として道路事業による整備に変更したため。			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		提案事業	高質空間形成施設(モニュメント)	高質空間形成施設(駅前美化)へ移行したため。			影響なし						
	新たに追加した事業	基幹事業	地域創造支援事業(JR長府駅橋上化)	JRとの協議により、市道印内才川線の移転補償に変更したため。			影響なし						
			まちづくり活動推進事業(レンタサイクル事業)	市道印内才川線の完成時期に伴い、整備計画期間内に行うことが困難であるため。			指標2に影響するが、数値目標は据え置く。						
		提案事業	まちづくり活動推進事業(まちづくりPR活動)	市道印内才川線の完成時期に伴い、整備計画期間内に行うことが困難であるため。			指標2に影響するが、数値目標は据え置く。						
			道路(市道長府松小田本町5号線(松小田第2踏切))	地元の要望箇所について関係機関との協議が終了したため。			指標2に影響するが、数値目標は据え置く。						
			道路(市道長府才川町11号線(長浜上第1踏切))	地元の要望箇所について関係機関との協議が終了したため。			指標2に影響するが、数値目標は据え置く。						
地域生活基盤施設(広場(ポケットパーク))			回遊性の向上、歩行者の休憩スペースと地域住民の集いの場としての整備効果が期待できるため。			指標2に影響するが、数値目標は据え置く。							
地域生活基盤施設(案内板)			観光拠点として利用者の利便性の向上を図るため。			指標2に影響するが、数値目標は据え置く。							
高質空間形成施設(公衆トイレ新設)			城下町長府の玄関口であるJR長府駅の駅前空間の利便性向上のため。			指標2に影響するが、数値目標は据え置く。							
高質空間形成施設(駅前美化)	観光拠点としての駅舎と併せてシンボル性のある空間として整備を行うため。			指標2に影響するが、数値目標は据え置く。									
高質空間形成施設(歩行支援施設(歩道用シェルター新設))	公共交通機関への乗り継ぎの際及び障害者の乗降の際の支援施設を充実するため。			指標2に影響するが、数値目標は据え置く。									
高次都市施設(自由通路)	市道長府松小田北町自歩道2号線の整備事業から分離して自由通路を明確化するため。			影響なし									
提案事業	なし												
交付期間の変更	当初	平成19年度～平成23年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	南北連携時間	分	10	H18	3	H23	—	2.7	○	あり なし	駅の南北間を連絡する自由通路などが整備でき、南北移動の時間短縮などにより利便性の向上、地域交流の活性化が図られ、駅に連絡する道路などの整備により駅へのアクセス性を向上させ、歩道、自歩道、自由通路の設置により歩行空間の安全性を確保し、また交通バリアフリー化施設整備などにより移動の円滑化を図ることができ、地域住民や駅利用者の交通環境を向上させることができた。	
	指標2	交通環境満足度	%	10	H18	50以上	H23	—	79.8	○	あり なし	公園施設の整備による快適性・安全性の向上や、周辺道路等の整備によるアクセス性の向上により、公園の利用促進を図ることができたが、目標値に達しなかった。	
	指標3	公園利用者数	人/年	20,000	H18	22,500	H23	—	20,563	△	あり なし	他のJR協定工事との施工時期の調整結果より、浸水対策事業は平成24年度以降の別パッケージの社会資本総合整備計画で施工実施することとなり、浸水区域の解消ができなかった。	平成27年3月31日
指標4	浸水家屋数	戸	4	H16	0	H23	—	計測不能	—	あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の数値指標1	まちづくり活動・会合等(ワークショップ)の開催回数	回	0	H18			—	3		あり	ワークショップや事業説明会等を開催し、多数の住民の参加等を得ることで、まちづくりへの関心の高まりを図ることができた。	
	その他の数値指標2	道路の歩道バリアフリー化路線延長	m	0	H18			—	705		あり	駅南口の駅前広場や駅に連絡する自歩道(市道)のバリアフリー化を推進し、誰もが円滑に移動できる歩行経路を確保できた。	
その他の数値指標3	公園利用件数	件/年	883	H18			—	976		あり	公園施設の整備による公園利用の安全性・快適性の向上や、周辺道路等の整備によるアクセス性の向上により、公園の利用促進を図ることができた。		
4)定性的な効果発現状況	*地区内の小学校・中学校の通学路としての歩道、自歩道などが整備されたため、通学時の児童・生徒の安全に大きく寄与した。												
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況								今後の対応方針等		
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			数値目標は事業中のデータ測定を考慮して指標を定める。	
	住民参加プロセス	・道路設計における住民参加(ワークショップの開催) ・地元自治会への事業説明	都市再生整備計画に記載し、実施できた			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			今後も、住民の意見を聞いて利用の促進を図る。また、関係者の意見を聞きながら、利用の促進を図る。	
	持続的なまちづくり体制の構築	・事業成果の小冊子の配布 ・要望活動の取組への支援	都市再生整備計画に記載し、実施できた			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			今後も当該地区の事業の成果を住民や来訪者へ幅広くPRを続ける。 今後も住民の主体的なまちづくり活動を促進し、市が支援を行う。	

様式2-2 地区の概要

長府駅周辺地区(山口県下関市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標：歴史と産業の調和を図ったJR長府駅周辺整備等による、子供からお年寄りまでの地域住民及び来訪者が、安全で快適に過ごすことのできるまちづくりを目指す。	南北連携時間	単位：分 10	H18	3 H23 2.7 H24
目標① 児童や高齢者、観光客など、誰もが安全に安心して利用できる歩行空間の改善	交通環境満足度	単位：% 10	H18	50以上 H23 79.8 H24
目標② 子供達が健やかに、高齢者がいきいきと生活できる生活環境の改善	公園利用者数	単位：人/年 20,000	H18	H23 20,563 H24
目標③ 観光拠点としての利便性、快適性、シンボル性を備えた駅前空間の整備	浸水家屋数	単位：戸 4	H16	0 H23 計測不能 H24



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・JR長府駅北側等での道路、自歩道、踏切道の整備により、安全な歩行経路及び通学路を確保できた。また、自由通路の新設により駅へのアクセス性の向上と南北間の地域交流の活性化を図ることができた。 ・JR長府駅南口広場（道路）や自歩道の整備とともに取り付け道路との交差点を改良し、南側駅前広場の安全性を向上させることができた。 ・公園整備により良好な住環境を向上させることができた。 ・JR長府駅構内や駅に連絡する道路（南口広場）、自歩道のバリアフリー化や駅前美装化により、観光拠点として相応しい魅力ある駅前空間を創造することができた。 ・しかし、地区東部の道路事業（踏切）や浸水対策事業の工事施工を計画期間中にできなかったため、狭小踏切道の改善や浸水区域の解消を図ることができなかった。 ・また、JR長府駅南口広場や周辺の道路、自歩道の整備などにより観光拠点づくりができたことを踏まえ、観光客の利用促進に向けてレンタサイクル事業などの観光振興を図る必要がある。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・JR長府駅及び周辺道路などの基盤施設の整備は達成されたので、今後は利活用のためのソフト施策を住民との協働により検討し、駅の利用促進を図る。 ・JR長府駅を中心とする安全な歩行空間の確保と観光拠点として魅力ある駅前空間の創造、及び快適な生活環境の形成をほぼ達成できたことから、今後は住民との協働により環境美化活動などのソフト施策を検討し、良好な環境などの保持、充実を図る。 ・地区東部の長浜上第1踏切において、道路事業を完了して狭小踏切道の改善を図る。 ・地区東部において、水路の改修を完了して浸水区域の解消を図る。 ・観光客などによるJR長府駅の利用促進に向けて、情報の発信やレンタサイクル事業などの観光振興を図る。